

2017 年度事業報告

2017 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

2017 年 6 月 20 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、

- ・平成 28 年度（2016 年度）事業報告の件を報告し、
 - ・第 1 号議案 平成 28 年度（2016 年度）貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件
 - ・第 2 号議案 理事及び監事の選任の件
- を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については退会 2 法人、個人会員については入会 322 名、退会 214 名があり、2018 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	1,697 名
準 会 員	1,295
研 究 会 員	2,125
小 計	5,117
法 人 会 員	107 法人
合 計	5,224 名・法人

3. 事業報告

[A. 試験関係]

(A1) 資格試験の実施

2017 年 12 月 11 日、12 日及び 13 日の 3 日間、東京（TOC 五反田）及び大阪（天満研修センター）において実施し、2018 年 2 月 14 日に結果発表を行った。

第 1 次試験の総受験科目数は 3,859 科目、うち合格科目数は 649 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 88 名であった。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数 (人)	1,069	827	688	542	733
合格者数 (人)	110	217	94	89	139
合格率	10.3%	26.2%	13.7%	16.4%	19.0%

第 2 次試験の総受験科目数は 1,259 科目、うち合格科目数は 149 科目であり、その結果、(基礎科目も含めた) 新たな全科目合格者数は 67 名であった。

第 2 次試験 (専門科目)	生保 1	生保 2	損保 1	損保 2	年金 1	年金 2
受験者数 (人)	367	355	160	128	106	143
合格者数 (人)	41	44	17	16	12	19
合格率	11.2%	12.4%	10.6%	12.5%	11.3%	13.3%

(A2) CERA 試験の実施

2017年10月3日にTKP 東京駅日本橋カンファレンスセンターにおいて実施し、2018年1月15日に結果発表を行った。

受験者数は41名、うち合格者数は4名（合格率9.8%）であった。

(A3) 教科書の改訂

2018年2月、「生保1」の第4章「新商品」を廃刊とし、新たに構成した第4章「生命保険の商品開発」を発売した。また、同時に「損保」の第10章「リスク管理」及び付録を改訂し、ERM・ソルベンシー規制等のリスク管理分野に関して最新化を行った。

[B. 教育・研修・研究発表関係]

(B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー講座を、2017年5月9日から2017年10月3日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目			受講者数
基礎講座 (12科目)	・確率論 ・数学（確率論演習） ・生保数理 ・会計学 ・生命表	・統計論 ・数学（統計論演習） ・損保数理 ・経済学	・モデリング ・年金数理 ・投資理論	148名
特論講座 (7科目)	・危険選択論 ・保険監督法 ・ファイナンス数理	・社会保険論 ・年金実務法規 ・リスクマネジメント論	・人口論	34名

アクチュアリー追加演習講座を、2017年9月27日から2017年11月30日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目（受講者数）	
追加演習講座	・生保数理演習（34名） ・年金数理演習（25名）	・損保数理演習（41名） ・モデリング演習（23名）

関西委員会アクチュアリー講座を、2017年8月から2017年10月の期間で実施した。実施科目と受講者数は、生保数理：1名、年金数理：2名であった。

(B2) 年次大会の開催

2017年11月9日、10日の2日間、経団連会館及びステーションコンファレンス東京において、年次大会を開催した。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

- ・「第4の科学：データサイエンスとデータサイエンティスト」

北川 源四郎 氏（東京大学数理・情報教育研究センター 特任教授
／情報・システム研究機構 前機構長、統計数理研究所 前所長）

- ・「What Makes the Actuarial Profession a Profession? A Global Perspective.
何がアクチュアリーを専門職たらしめるのか?～グローバルな観点から」
Thomas S. Terry 氏（国際アクチュアリー会（IAA）会長）
- ・「激動する世界経済、日本企業の課題と対応策」
進藤 勇治 氏（産業評論家／進藤産業研究所代表）

今年度より、Open Discussion Forum を大会 2 日目のセッションにおいて開催することとし、海外アクチュアリーと英語によるディスカッション等が行われた。

また、論文発表：17 編、プレゼンテーション：15 セッション、パネルディスカッション：1 セッションが行われた。

(B3) IT 研究大会の開催

2018 年 1 月 25 日、26 日の 2 日間、三井生命ホール（大手町野村ビル）において、IT 研究大会を開催した。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

- ・「IoT/AI 時代をリードするデジタル・トランスフォーメーション
～リアルタイム化による価値の構造改革～」
宮原 洋祐 氏（フューチャーアーキテクト株式会社 執行役員）

今年度より最新 IT 技術調査グループによる「最新 IT 技術の動向とアクチュアリーの役割」の発表が行われた。

また、IT 研究会第 1 グループから第 6 グループにより活動報告が行われた。

(B4) 例会の開催

2017 年度は合計 10 回の例会を開催した。詳細は次のとおり。

第 1 回 (2017. 6. 21) [会計基準]	IFRS 第 17 号導入にあたっての実務上の課題～アクチュアリーの視点から～	Henny Verheugen 氏 (ミリマン) William Hines 氏 (ミリマン)
第 2 回 (2017. 7. 5) [医療保険]	グローバルおよび日本における特定疾病発生率のトレンドー日本市場のアサンプションを策定する上で過去のトレンドや海外市場から学べることは	アンドリュー・ガスケル氏 (RGA インターナショナル・コーポレーション)
第 3 回 (2017. 7. 26) [会員報告]	将来を見据えたアクチュアリー教育像～IAA シラバス改訂の議論～	村田 富生 君 (IAA Executive Committee)
	IAA におけるモデル実務基準 ISAPs の議論の状況	河野 年洋 君 (IAA Actuarial Standards Committee)
第 4 回 (2017. 9. 11) [アジア]	マレーシアの保険業界について	Zainal Abidin Mohd. Kassim 氏 (Actuarial Partners Consulting/マレーシアアクチュアリー会元会長)
第 5 回 (2017. 9. 26) [リスク管理]	長寿リスクへの対応	Gord-Roland Rinke 氏 (ハノーバー再保)

第6回 (2017. 10. 23) [プロフェッショナリズム]	※プロフェッショナリズム研修（継続教育）と共同開催 (B10)①参照	
第7回 (2017. 12. 6) [社会保障]	将来人口推計とその応用	石井 太 氏 (国立社会保障・人口問題 研究所 人口動向研究部長)
第8回 (2018. 2. 9) [データサイエンス]	プレディクティブ・モデリングの概要 と最新動向	岩沢 宏和 君
	統計科学と機械学習の違いについて	藤澤 洋徳 氏 (統計数理研究所教授)
第9回 (2018. 2. 27) [リスク管理]	元英国保険監督官の視点	Andrew Bulley 氏 (Deloitte UK)
第10回 (2018. 3. 5) [会計基準]	IFRS 第17号の解説 —主要コンセプト の議論の変遷を中心に—	山田 辰己 氏 (あずさ監査法人)

※第9回例会には、米国アクチュアリー会（SOA）のメンバーも参加。

(B5) 関西委員会例会の開催

2017年度は合計4回の関西委員会例会を開催した。詳細は次のとおり。

第1回 (2017. 10. 5) [経済]	行き詰まる金融政策 ～マイナス金利、FTPL、ヘリマネ そして出口リスク	岩村 充 氏 (早稲田大学大学院教授)
第2回 (2018. 1. 12) [リスク管理]	「10大事件」からみた金融リスク管理	藤井 健司 氏 (みずほ証券株式会社)
第3回 (2018. 3. 15) [その他]	リスク行動の心理学 ～自動運転は交通安全の切り札か～	芳賀 繁 氏 (立教大学教授)
第4回 (2018. 3. 22) [保険計理・年金 ・リスク管理]	2017年度の分科会活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM分科会

(B6) ムーンライトセミナーの開催

2017年12月から2018年2月にかけて次の5つのテーマで開催した。

アクチュアリーのための生物統計学入門	岩崎 宏介 君 (ミリマン)
状態空間モデリングの実践	野村 俊一 君 (情報・システム研究機構 統計数理研究所 ／データサイエンス共同利用基盤施設データ 融合計算支援プロジェクト)
保険業界におけるAIの活用と実践	藤井 規雄 氏 (ソフトバンク株式会社) 高橋 俊介 氏 (ソフトバンク株式会社) 松尾 潤樹 氏 (ソフトバンク株式会社)

IFRS 第 17 号（保険契約）の概要と実務への適用	土井 和行 君（タワーズワトソン） 朝田 朋憲 君（タワーズワトソン）
経済価値ベースの ERM の意義をあらためて考える	森本 祐司 君（キャピタスコンサルティング） 松平 直之 君（キャピタスコンサルティング）

(B7) 関西セミナーの開催

2018 年 2 月 15 日に次のテーマで開催した。

<ul style="list-style-type: none"> ・ Gerber-Shiu function を用いた Credit Default Swap の価格付け ・ 欧州生命保険会社における企業価値開示に関する一考察 ・ 機械学習の手法比較と考察 -R による株価データ予測- 	京都大学大学院理学研究科 保険数学ゼミ学生
---	--------------------------

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次の 30 のコンテンツを公開した。

- ・ 退職給付会計に関する数理実務基準（平成 29 年 3 月 24 日改定版）
- ・ IAA リスクブック第 1 章（IAA リスクブック概要）
- ・ IAA リスクブック第 2 章（アクチュアリー機能）
- ・ IAA リスクブック第 3 章（専門職基準）
- ・ IAA リスクブック第 4 章（オペレーショナルリスク）
- ・ IAA リスクブック第 5 章（大規模災害リスク）
- ・ IAA リスクブック第 6 章（非比例再保険）
- ・ コミュニケーション研修
- ・ 論理的コミュニケーション研修
- ・ アサーティブ・コミュニケーション研修
- ・ 交渉力研修
- ・ ファシリテーション研修
- ・ 平成 28 年度年次大会報告集「回帰分析、使えていますか？」
- ・ IAS19 に関する数理実務基準
- ・ 損保の実務基準（平成 29 年 3 月 3 日改正版）
- ・ 2015 年度 Open Discussion Forum 資料
- ・ 平成 28 年度年次大会報告集「老後所得と私的年金」
- ・ 平成 28 年度年次大会報告集「1995 年保険業法改正と残された課題
— 生命保険会社の保険計理にかかる規制を中心に —」
- ・ 平成 28 年度年次大会報告集「再保険の今日的なあり方と、その効果的な戦略意思決定に関する視座」
- ・ ボラティリティ推定モデル
- ・ 金利モデル（ショートレートモデル）の概要
- ・ モンテカルロ法
- ・ オプション価格の理論
- ・ イールドカーブ作成法
- ・ 保険会社のエンタープライズ・リスク・マネジメントの数理的側面
- ・ 保険会社におけるエンタープライズ・リスク・マネジメントの実務
- ・ EU ソルベンシー II における損害保険巨大災害リスクのリスク量計算方法
- ・ プロフェッショナルリズム研修（継続教育）2017
- ・ 今日から始める経済価値ベース・ソルベンシー基準 2017 ～諸外国等の状況を中心に～
- ・ IFRS 第 17 号「保険契約」について

(B9) アクチュアリー海外研修の実施

生保、年金、損保をテーマとする3班に分かれて、第7回アクチュアリー海外研修を実施した。

生保班及び年金班は米国アクチュアリー会(SOA)の年次大会でのプレゼンテーションを含め2017年10月14日から26日までの期間で、損保班は米国損保アクチュアリー会(CAS)の年次大会でのプレゼンテーションを含め2017年11月4日から18日までの期間でそれぞれ研修が行われた。参加者は、生保班25名、損保班6名、年金班5名であった。

(B10) プロフェッショナルリズム研修の実施

- ① プロフェッショナルリズム研修(継続教育)を、2017年10月23日に次の内容で実施した。
 - ・アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君(りそな銀行)
 - ・専門職の倫理 杉本 俊介 氏(大阪経済大学)
 - ・組織とのコンフリクトに関する演習 藤澤 陽介 君(RGA)
- ② プロフェッショナルリズム研修(初期教育)を、2018年2月26日に次の内容で実施した。この研修は正会員資格の認定要件である。
 - ・アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君(りそな銀行)
 - ・IAA教育シラバスとプロフェッショナルリズム 村田 富生 君(三井生命)
 - ・アクチュアリーと行動規範について 奈良 伸一 君(明治安田生命)
 - ・生保のプロフェッショナルリズム 渡部 仁 君(日本生命)
 - ・損保のプロフェッショナルリズム 金子 洋巳 君(損保ジャパン日本興亜)
 - ・年金のプロフェッショナルリズム 片寄 郁夫 君(りそな銀行)
- ③ 少額短期保険協会において、金融庁と本会による少額短期保険の保険計理人向けの研修が2018年1月24日に実施された。本会としてはプロフェッショナルリズム研修の一環として、片寄 郁夫 君(プロフェッショナルリズム教育部会長)が講師を担当した。

(B11) CERAに関する研修等の実施

- ① 2017年11月17日、18日の2日間、CERA試験の受験者を対象に、ERMに関する日本特有の状況やERMのケーススタディについて講義やグループ学習を実施した。この研修はCERA資格の認定要件であり、受講修了者は23名であった。
- ② 2018年2月16日、ERMやCERAに関係する論文等を題材にディスカッションを行う「ERMに関するディスカッション」を開催した。

(B12) 研究集会の実施

2018年1月13日、若手会員の学術面の育成等のため、本会会員の論文等を題材とした大学研究者等との討論や学術論文への取り組み方を学ぶ場としての研究集会を、JARIPフォーラムと共催した。

[C. 調査・研究活動]

(C1) 標準生命表の改定

広く一般からの意見募集を経て、2017年5月、2018年度に適用する標準生命表の改定案として、「生保標準生命表2018(死亡保険用)」、「第三分野標準生命表2018」を金融庁に提出した。なお、2017年8月17日、金融庁は標準生命表改定の告示改正案に関するパブリックコメントの結果を公表し、2018年4月から標準生命表が改定されることとなった。

(C2) 実務基準に関する検討

実務基準の改正の要否等について検討を行った（今年度の改正は行わない）。

(C3) 保険商品数理に関する検討

生保商品特別検討WGにおいて、2018年2月及び3月、保険商品数理に関連するテーマについて金融庁とディスカッションを実施した。

(C4) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準については、IASB（国際会計基準審議会）及びIAIS（保険監督者国際機構）において精力的な検討がなされており、それぞれの機関会員であるIAA（国際アクチュアリー会）は、アクチュアリー専門職団体として、委託研究等の活動を行っている。本会は、IAAの委員会活動に積極的に参画している。

保険監督部会において、昨年度翻訳したIAAリスクブック第1章～第6章に続き第7章を除く第11章までを翻訳し、本会ホームページに公開した。本リスクブックは保険事業に関するリスク管理の上で重要と考えられる個別の課題について考察したものである。

(C5) IAA教育シラバス改訂への対応

2021年より改訂後IAA教育シラバスが発効となることを受け、将来の日本の試験・教育制度について、企画委員会及び試験・教育企画委員会、関連する委員会等において対応を検討していくこととした。具体的には改訂後シラバスを現行制度と対比した上で、政策面・実務面を議論予定。

(C6) データ・サイエンス集中セミナーの開催

2017年9月に合計4回の集中セミナーを開催した。詳細は次のとおり。

第1回 (2017.9.14)	データ・サイエンスの現状	工藤 征夫 君（事務局長） 山田 龍太郎 君（IAA Big Data WG メンバー／三井住友海上）
第2回 (2017.9.19)	統計数理研究所の歩みとこれから	野村 俊一 君（ASTIN関連研究会／ 統計数理研究所助教／データサイ エンス共同利用基盤施設データ融 合計算支援プロジェクト）
第3回 (2017.9.21)	プレディクティブ・モデリングと は何か？	岩沢 宏和 君 （ASTIN関連研究会）
第4回 (2017.9.28)	第5世代のアクチュアリー	山内 恒人 君（産学共同委員会 ／慶応大学 特任教授） 藤澤 陽介 君（産学共同委員会・ ASTIN関連研究会／RGA）

また、2017年10月から11月にかけてデータサイエンスに関する会員向けアンケートを実施し、第8回例会においてフィードバックを行った。

(C7) 2017年9月、ASTIN関連研究会にて米国損保アクチュアリー会（CAS）によるテキスト

「Predictive Modeling Applications in Actuarial Science Vol. I」の翻訳を発行し、会員へ無償提供を行った。

(C8) 2017年11月8日、ASTIN 関連研究会の主催により DataRobot 社の協力を得て、次のとおり「保険とデータサイエンスの融合に関するセミナー」を開催した。

・ Intelligible & Accurate Models : 機械学習の保険への応用

Xavier Conort 氏 (DataRobot 社)

・ 機械学習と統計学とアクチュアリー

岩沢 宏和 君 (ASTIN 関連研究会)

(C9) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

[D. 意見表明]

(D1) IAA のカウンシルでの投票 (電子投票を含む)

- ① 2017年4月、IAA ブダペスト会議でのカウンシル・ミーティングにおいて、ISAP1、2、3等の整合性修正等に関して、賛成として投票を行った。
- ② 2017年8月、IAA 会員資格に関して、賛成として投票を行った。
- ③ 2017年10月、IAA シカゴ会議でのカウンシル・ミーティングにおいて、IAA 教育シラバス・IAA 教育ガイドラインの改訂等に関して、賛成として投票を行った。

(D2) IAA による ISAP1 と ISAP1A の統合等の改定に関する公開草案に対し、関係委員会にて検討を行い、2017年10月、意見を提出した。

(D3) IAA による ISAP6 の公開草案に対し、ERM 委員会及び関係委員会にて検討を行い、2018年2月、意見を提出した。

(D4) ASBJ (企業会計基準委員会) による公開草案第54号「実務対応報告第34号の適用時期に関する当面の取扱い (案)」に対し、退職給付会計基準部会にて検討を行い、2018年2月、日本年金数理人会と連名で意見を提出した。

[E. 国際関係]

(E1) IAA 活動

IAA の委員会活動に積極的に参画し、IAA から IASB、IAIS 等への意見発信に参画している。なお、トピックスとしては次のとおり。

① ICA2018 ベルリンの推進

- ・ 年次大会にドイツアクチュアリー会会長 Roland Weber 氏を招き、ICA2018 に関するプレゼンテーションを実施するなど、会員宛の情報提供の充実を図った。
- ・ ICA2026 に向けた活用を視野に、ICA2018 のビデオコンテンツ等の視聴が可能なバーチャル ICA に参加することとした。

② 「ICA2026 費用資金」の創設と積立

- ・ ICA2026 開催資金の一部を事前に明示的に確保するため、その取扱いを規定する「ICA2026 費用資金取扱規程」を制定し、2017年度決算において2000万円を積立。

③ IAA2019 への対応

- ・ IAA2019 と年次大会を一体的な開催とし、「120 周年記念事業実行特別委員会」として企画することとした。

(E2) 第 45 回東アジア・アクチュアリー講座 (ASEA) の実施

2017 年 9 月 12 日から 15 日までの 4 日間にわたり、東アジアを中心とする 11 地域から 36 名の参加を得て、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等について講義を実施した。

(E3) 国際会議等への派遣等

次のとおり国際会議等に会員を派遣した。

- ① 2017 年 4 月 18 日～23 日 IAA 会議 (於:ハンガリー ブダペスト)
角 英幸 君、村田 富生 君、吉村 雅明 君、河野 年洋 君、重原 正明 君、中村 吉男 君、池田 真次 君、山田 龍太郎 君、清水 信広 君、関根 賢二 君、工藤 征夫 君
- ② 2017 年 6 月 4 日～7 日 PBSS コロキアム (於:メキシコ カンクン)
清水 信広 君、遠田 健 君
- ③ 2017 年 7 月 12 日～13 日 IAA 保険会計委員会 (IAC) (於:イギリス ロンドン)
中村 吉男 君
- ④ 2017 年 8 月 20 日～24 日 ASTIN&AFIR/ERM コロキアム
ASTIN Data Analytics ワーキング・パーティにて ASTIN 関連研究会より論文発表 (於:パナマ パナマシティ)
山下 実若 君、白井 健史 君、畑 加寿也 君、遠藤 史博 君、小田 秀匡 君
- ⑤ 2017 年 9 月 12 日～13 日 英国アクチュアリー会 (IFoA) データサイエンス・サミット (於:イギリス ロンドン)
藤澤 陽介 君、羽村 友城 君
- ⑥ 2017 年 10 月 3 日～8 日 IAA 会議 (於:アメリカ シカゴ)
角 英幸 君、村田 富生 君、吉村 雅明 君、河野 年洋 君、重原 正明 君、中村 吉男 君、山本 貴史 君、辻 芳彦 君、山崎 浩 君、山田 龍太郎 君、清水 信広 君、関根 賢二 君、工藤 征夫 君

(E4) IAA 会長とのミーティング

2017 年 5 月、IAA 会長 Tom Terry 氏が来日し、IAA 教育シラバスの改訂について、本会の関係委員長等との意見交換を行った。

また、2017 年 11 月、同氏が年次大会にて来日した際、米国のプロフェッショナルリズムの実態などについて、本会の企画委員会メンバーとの意見交換を行った。

(E5) 米国損保アクチュアリー会 (CAS) とのミーティング

2017 年 12 月、CAS の会長 Brian Brown 氏と前会長 Bob Conger 氏の来日を受け、本会関係者とのミーティングを開催し、CAS の新資格である CSPA (Certified Specialist in Predictive Analytics) などについて意見交換を行った。

[F. 評議員会]

2018年2月27日に第29回評議員会を開催し、2017年度事業報告、2018年度事業計画(案)、アクチュアリー像について審議した。

[G. 産学共同]

- (G1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君(住友生命)、上原 尚 君(住友生命)、大嶋 孝造 君(住友生命)、片寄 郁夫 君(りそな銀行)、佐内 利典 君(大同生命)、豊留 健 君(日本生命)、中山 素生 君(日本生命)及び南 嘉博 君(日本生命)を派遣した。
- (G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦 君(住友生命)、武村 昌紀 君(大同生命)及び恒川 啓之 君(日本生命)を派遣した。
- (G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、松本 浩司 君(住友生命)を派遣した。
- (G4) 東京大学より社会数理先端科学の講師派遣の依頼があり、中村 亮一 君(ニッセイ基礎研究所)を派遣した。
- (G5) 統計教育連携ネットワーク(JINSE)運営委員の依頼を受け、連携団体として拡大版JINSEに参加することとした。
- (G6) 2017年4月、早稲田大学理工学術院の「早稲田・統計科学セミナー」において、ASTIN関連研究会及び産学共同委員会の3名の委員が講演を行った。
- (G7) 2017年5月、明治大学総合数理学部・先端数理科学インスティテュート共催の特別講演会「統計科学のフロンティア」(講演者:北川 源二郎 明治大学先端数理科学インスティテュート所員／情報・システム研究機構 前機構長／統計数理研究所 前所長、Dan Nicolae シカゴ大学統計学部教授・学部長)について、産学共同委員会の活動として会員向けに参加案内を行った。
- (G8) 2017年6月、明治大学総合数理学部の特別レクチャー「金融リスクの計量化」(講演者:楠岡 成雄 明治大学客員教授／東京大学名誉教授)について、ERM委員会及びALM研究会の活動として会員向けに参加案内を行った。
- (G9) 2017年9月、京都大学大学院理学研究科数学教室の連続講義について、派遣講師がその運営に参画する形で協賛した。
- (G10) 2017年9月及び11月、早稲田大学大学院会計研究科において、アクチュアリーに興味のある学部生・大学院生を対象としたキャリア支援セミナーが開催され、産学共同事業の一環として、工藤 征夫 君(事務局長)及び藤澤 陽介 君(ERM委員長)を講師として派遣した。
- (G11) 早稲田大学より生保数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、2018年度から新たに講師派遣を実施することとした。

[H. 表彰関係]

(H1) 資格試験理事長賞及び成績優秀者

① 理事長賞

寺元 祐貴 君（日本生命）、濱谷 悠海 君（三井生命）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀者

数学 1 名、生保数理 1 名、損保数理 1 名、年金数理 2 名、会計・経済・投資理論 1 名、生保 1 1 名、年金 1 1 名の成績優秀者を表彰した。

(H2) 優秀論文の表彰

① 2017 年 11 月 9 日、年次大会において、次の優秀論文を表彰した。

「状態空間モデルの損害保険への活用 –R パッケージ “KFAS” を用いた解析例–」

野村 俊一 君（統計数理研究所）

② 2018 年 1 月 25 日、IT 研究大会において、次の IT 関係優秀論文を表彰した。

「最新 IT と異業種コラボレーションによるニュービジネスの創出」

IT 研究会 第 4 グループ

「保険業界における人工知能の活用 ～人工知能で作る保険の未来～」

IT 研究会 第 6 グループ

[I. 広報・出版活動]

(I1) 広報活動

学生を主な対象とした「第 26 回アクチュアリーセミナー」を 2018 年 1 月 20 日に東京及び大阪において実施した。参加者は、東京 43 名、大阪 30 名であった。

(I2) 情報提供機能の充実

- ① 本会ホームページで公開している「合格者の声」について、リニューアル（紹介メンバーの入れ替え）を行った。
- ② 本会ホームページにおけるトップページ及び CERA 関連情報の充実に向けて検討を行った。
- ③ 標準生命表の改定に伴い、本会ホームページにおいて、標準生命表及びその作成概要に加え、作成過程や数値データ及び英語版を公表した。

(I3) 関連協会の事業への協力活動

公益財団法人日本数学検定協会が主催する公益目的事業「数学甲子園 2017」（第 10 回全国数学選手権大会）の本選に協賛した。

(I4) 会報等の刊行

① 会報

第 70 号	<ul style="list-style-type: none">・ 生命保険会社の ERM における資本配賦について・ 法定会計上の収益に基づいて契約者配当を決定する場合の EV における運用収益の計算方法に関する考察・ 確率論的手法による保険キャッシュフロー計算に関する一考察・ 経済価値ベースの負債評価と整合したプライシングに関する一考察・ 将来人口推計を踏まえた生命保険業界の将来収益予測に関する一考察・ マルチコーホートモデルを使った死亡率の予測について・ リスク分担型企業年金に関する一考察 ～諸外国の実例をふまえて～
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・状態空間モデルの損害保険への活用—R パッケージ“KFAS”を用いた解析例— ・1次元離散空間上のk次n項補整およびその係数行列について
--	--

②会報別冊

第 281 号	<p><第7回アクチュアリー会海外研修報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生保・年金組報告 ・損保組報告 ・SOA プレゼンテーション資料（生保） ・SOA プレゼンテーション資料（年金） ・CAS プレゼンテーション資料（損保） ・研修後アンケート
第 282 号	<p><第57回IT研究大会報告>（IT委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講演「IoT/AI時代をリードするデジタル・トランスフォーメーション～リアルタイム化による価値の構造改革～」 （フューチャーアーキテクト株式会社 執行役員 宮原洋祐） ・保険業界におけるFintechの活用について ・開発部門と運用部門の新たな関係作り、役割見直しにより、サービスリソースサイクルの”超短縮”を実現する ・VR（バーチャルリアリティ）により変革される世界への保険会社の対応 ・オープンAPIの有用性と保険業界が起こすイノベーション ・ヒューマンエラーに着目したシステム障害の未然防止 ・保険業界におけるビッグデータ活用を目的としたデータサイエンティストの役割と育成について
第 283 号	<p><CROフォーラム：モデル管理における先進的な実務／北米CRO評議会：モデルリスク管理—実務と原則>（国際関係委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CROフォーラム：モデル管理における先進的な実務 ・北米CRO評議会：モデルリスク管理 — 実務と原則

③アクチュアリージャーナル

第 99 号	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度第7回例会報告 ・ASTIN Bulletin Abstracts（ASTIN関連研究会翻訳） ・2015年シドニーAFIR-ERM国際会議概要（AFIR関連研究会報告） ・平成28年度関西委員会分科会報告 ・平成28年度ムーンライトセミナー報告 ・早稲田・統計科学セミナー報告 ・平成28年度新CERA資格者 ・平成28年度資格試験合格者 ・平成28年度継続教育制度履修目標達成者 ・図書紹介
第 100 号 <100号記念 特集号>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクチュアリージャーナル100号に寄せて—理事長メッセージ ・特集企画①「IAA元・次期会長による座談会」 ・特集企画②「歴代編集部会長からのメッセージ」 ・特集企画③「アクチュアリージャーナル100号への歩み（年表）」 ・特集企画④「1～99号のジャーナルの振り返り」 ・平成28年度第8回例会報告 ・平成28年度第9回例会報告

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度継続教育 CPD 単位履修状況 ・アクチュアリーリレートーク（連載第 1 回） ・平成 29 年度委員会・部会・研究会・WG・プロジェクトチーム名簿
第 101 号 ＜データ・サイエンス 特集号＞	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・サイエンス集中セミナー <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回「データ・サイエンスの現状」 第 2 回「統計数理研究所の歩みとこれから」 第 3 回「プレディクティブ・モデリングとは何か？」 第 4 回「第 5 世代のアクチュアリー」 ・保険とデータサイエンスの融合に関するセミナー（ASTIN 関連研究会報告） ・平成 29 年度第 3 回例会報告 ・第 45 回 ASEA 開催について（ASEA 部会・事務局報告） ・数学甲子園について（広報委員会報告） ・第 31 回 ICA2018 ベルリンへの招待状（大会委員会・事務局報告） ・アクチュアリーリレートーク（連載第 2 回）
第 102 号	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度第 2 回例会報告 ・平成 29 年度第 4 回例会報告 ・平成 29 年度第 5 回例会報告 ・リスク管理・ERM の意義を語源から考える－米国の GRO 職の経験から学んだこと－（CERA 資格委員会） ・2015 Emerging Risks Survey の翻訳（ERM 委員会） ・平成 29 年度アクチュアリーセミナー報告（アクチュアリーセミナー部会・関西委員会） ・アクチュアリーリレートーク（連載第 3 回）
特別号 ＜リスクと保 険第 14 号＞	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「国際的な金融規制改革を見直す動き～プロシクリカリティ対策を踏まえて～」 ・講演「金融リスク管理の現状と方向性」 ・講演「現代リスク理論の広がり～破産理論を中心に～」 ・寄稿「ISAP6 の公開草案の概要と論点」 ・論文「経済価値評価の下で持続可能な資本配賦原理」

④平成 29 年度 資格試験問題集